

2020 年度 文学部・人間科学部

## 「授業に関する学生アンケート調査」

### 報告書

#### 目次

1. はじめに 調査の概要と結果のポイント
2. アンケート質問項目
3. 回答概要 学科学年別傾向と各質問項目への回答状況
4. 学生の勉学状況
  - (1) 成績分布
  - (2) 学習時間
  - (3) 読書習慣: 傾向頻度
  - (4) 読書習慣: 学年別学科別傾向
5. オンライン授業に関する自由記述
6. おわりに

2021 年 6 月

文学部・人間科学部 FD委員会

## 1 はじめに 調査の概要と結果のポイント

文学部及び人間科学部の「授業に関するアンケート調査」は、2000 年度から毎年実施している。調査が対象としているのは文学部および人間科学部の専任教員（特任教授、助教を含む）であり、各教員には前期・後期の授業からそれぞれ 1 科目以上でのアンケート実施を依頼した。アンケート実施期間は、前期は 7 月 14 日(火)から 8 月 15 日(土)までの 4 週間、後期は 12 月 1 日(火)から 12 月 21 日(月)までの 3 週間とし、専修大学ポータルサイトのアンケート機能を利用した。

アンケート実施科目は当該教員が担当する専門科目のうち履修者が最も多い講義科目を抽出して原案とし、教員の申し出によって変更及び追加を行った。そのため若干の実習科目も含まれている。必修、選択の別では、選択科目が全体の約 93.8%を占める。

対象教員数は 102 名、実施科目数は前期 109 科目、後期 110 科目、合計 219 科目であった。アンケート対象学生の延数は前期 9,874 人、後期 7,986 人であり、実際に得られた回答数はそれぞれ 3,898、1,992 であった。回答率は前期、後期それぞれ 39.5%、24.9%であった(【表 1】)。概して回答率が低いことがこの調査の課題とするべきところであるが、今年度の回答率が 10%に満たない授業は 1 割であり、昨年度の 3 割に比べると回答率は増加したといつてよい(【表 2】)。

アンケート調査の結果からは、授業の「明晰さ」、「体系性」、「知的魅力」、「有益度」、「教員の熱意」など、授業のアカデミックな質に関しては概して高い評価が得られているのは昨年と同様である。「理解度への配慮」や「自発的学習の促進」など、学生に勉学を促すような授業内の仕掛けがやや低いのは昨年同様であるが、しかしポイントは上昇しており、学修対する前向きの姿勢が高まっていることがわかる。学習姿勢の高まりは、授業外学習時間の増加に顕著にみて取れる。例年は、授業外学習時間が「全くしていない」を選択した学生が 3 割程度見られているが今年度は 1 割を切っている。同様に、例年は学習時間が多くなるにつれて人数割合が減少しているが、今年度は逆に増加しており、最も人数割合が多いのは「1 時間以上 4 時間未満」(2010 人、34%)となっている。「4 時間以上」学習している学生の回答も 6 パーセント以上ある。この変化は、授業の大部分がオンラインとなったことの予期せぬ「効果」であると考えられる。裏腹に、今年度唯一ポイントを下げた項目は「教員の熱意」であった。オンライン授業は、学生の学習効果は高めるが教員の熱意が直接には伝わりにくいということのようである。

授業そのものに対する満足度が高いのは昨年と同様である。学生の知的関心に応える授業が提供されていると判断して良い。新型コロナウイルスの感染拡大を受けて緊急的に導入されたオンライン授業であったが、この授業形態が当初の危惧をよそに、むしろ学生の予習や復習につながるなどの効果を見せており、今後活用を検討すべきツールと見てよいだろう。

【表1】 アンケート実施の状況

|              | 前期     | 後期     | 前期後期の合計 |
|--------------|--------|--------|---------|
| 対象教員数        | 102    | 102    |         |
| 実施教員数        | 102    | 102    |         |
| 実施率          | 100.0% | 100.0% |         |
| 実施科目数        | 109    | 110    | 219     |
| アンケート対象学生述べ数 | 9,874  | 7,986  | 17,860  |
| アンケート回答数     | 3,898  | 1,992  | 5,890   |
| 回答率          | 39.5%  | 24.9%  | 33.0%   |

【表2】 回答率の分布(科目単位)

| 回答率   | 科目数 | 比率     | 累積比率    |
|-------|-----|--------|---------|
| ～10%  | 16  | 7.4%   | 7.41%   |
| ～20%  | 54  | 25.0%  | 32.41%  |
| ～30%  | 46  | 21.3%  | 53.70%  |
| ～40%  | 41  | 19.0%  | 72.69%  |
| ～50%  | 20  | 9.3%   | 81.94%  |
| ～60%  | 15  | 6.9%   | 88.89%  |
| ～70%  | 13  | 6.0%   | 94.91%  |
| ～80%  | 6   | 2.8%   | 97.69%  |
| ～90%  | 4   | 1.9%   | 99.54%  |
| ～100% | 1   | 0.5%   | 100.00% |
| 合計    | 216 | 100.0% |         |

## 2 アンケート質問項目

質問項目は例年通りの16項目とした(【表3】)。Q1からQ8については「あてはまる」から「あてはまらない」までの5段階で回答、Q9については〈4時

間以上〉〈1 時間以上 4 時間未満〉〈30 分以上 1 時間未満〉〈30 分未満〉〈全くしていない〉から 1 つを選択させた。Q10 については〈①新聞、②学術書・学術論文、③授業の参考書、④文芸作品、⑤マンガ、⑥その他、⑦全く読んでいない〉の 7 項目を選択肢とし、複数回答を可とし、Q11 と Q12 は自由記述とした。今年度は、例年の 12 項目に加えてコロナ禍におけるオンライン授業に関するアンケートを 4 項目設けて自由記述で記入させた。

【表 3】 「授業評価に関する学生アンケート」 質問項目

| No. | 項目                                   | あてはまる                                           | どちらかといえばあてはまる | どちらともいえない  | どちらかといえばあてはまらない | あてはまらない |            |
|-----|--------------------------------------|-------------------------------------------------|---------------|------------|-----------------|---------|------------|
| Q1  | 授業にはほとんど出席し、積極的に参加した。                |                                                 |               |            |                 |         | 〈出席状況〉     |
| Q2  | この授業はわかりやすかった。                       |                                                 |               |            |                 |         | 〈明解さ〉      |
| Q3  | 授業内容は体系的であり、よくまとまっていた。               |                                                 |               |            |                 |         | 〈体系的性〉     |
| Q4  | この授業は知的魅力(面白さ)のあるものであった。             |                                                 |               |            |                 |         | 〈知的魅力〉     |
| Q5  | この授業は自分の学習にとって有益だった。                 |                                                 |               |            |                 |         | 〈有益度〉      |
| Q6  | 学生の理解度や反応に配慮した授業の進め方がなされていた。         |                                                 |               |            |                 |         | 〈理解度への配慮〉  |
| Q7  | 自発的に学習・探求するための指針や助言をこの授業から得ることができた。  |                                                 |               |            |                 |         | 〈自発的学習の促進〉 |
| Q8  | 授業に対する教員の熱意を感じた。                     |                                                 |               |            |                 |         | 〈教員の熱意〉    |
| No. | 項目                                   | 4時間以上                                           | 1時間以上4時間未満    | 30分以上1時間未満 | 30分未満           | 全くしていない |            |
| Q9  | この授業のために授業時間外で学修した時間(一週間平均)。         |                                                 |               |            |                 |         | 〈一週間の学習時間〉 |
| No. | 項目                                   | 選択肢                                             |               |            |                 |         |            |
| Q10 | 最近3ヶ月で読んだもののすべてにチェックを入れてください(複数回答可)。 | ①新聞、②学術書・学術論文、③授業の参考書、④文芸作品、⑤マンガ、⑥その他、⑦全く読んでいない |               |            |                 |         | 〈読書習慣〉     |

Q11 この授業を受けて有益だった点があれば書いてください。

自由記述

Q12 授業をより良くするために工夫できることがあれば書いてください。

自由記述

オンライン授業に関するアンケート

Q13 Google Classroom, Google Meet を使用して感想があれば書いてください。

自由記述

Q14 オンライン授業でよかった点について書いてください。(授業内容について)

自由記述

Q15 オンライン授業で不安に感じる点について書いてください。(授業内容について)

自由記述

Q16 これまで受講していた「対面授業」と比較して「オンライン授業」でよかった点があれば書いてください。 ※2～4年次向け

自由記述

【表 4】 学科・学年別回答状況

| 学科       | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次以上 | 合計 |
|----------|------|------|------|--------|----|
| 経済       | 0    | 9    | 6    | 2      | 17 |
| 現代経済     | 20   | 0    | 0    | 0      | 20 |
| 生活環境経済   | 46   | 0    | 0    | 0      | 46 |
| 国際経済     | 26   | 5    | 6    | 4      | 41 |
| 法律       | 0    | 1    | 7    | 0      | 8  |
| 政治       | 0    | 0    | 1    | 0      | 1  |
| 経営       | 11   | 21   | 1    | 0      | 33 |
| ビジネスデザイン | 13   | 3    | 0    | 0      | 16 |
| マーケティング  | 1    | 0    | 3    | 0      | 4  |
| 会計       | 1    | 0    | 1    | 0      | 2  |
| 日本語      | 0    | 50   | 24   | 6      | 80 |

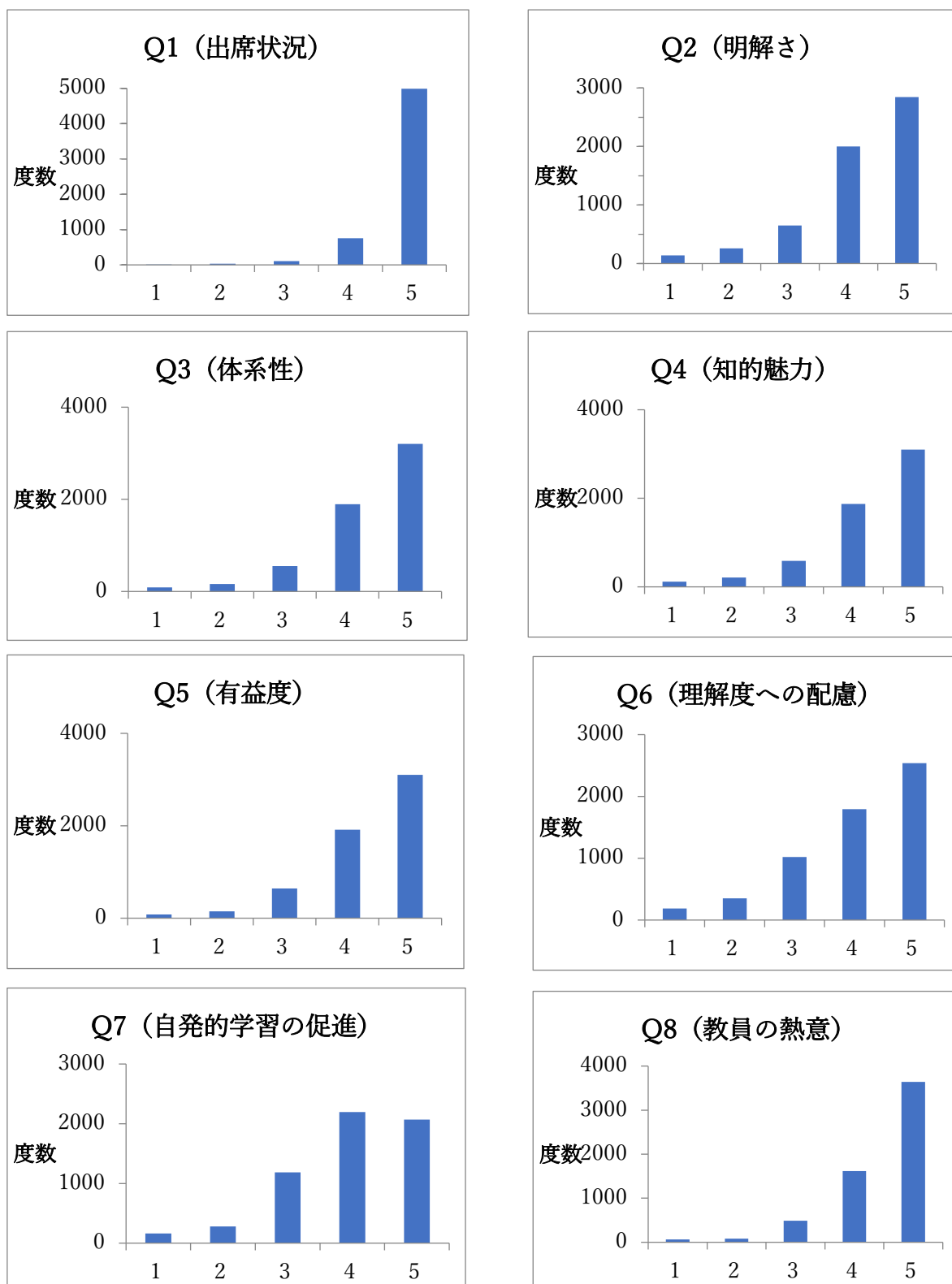
|            |      |      |      |     |      |
|------------|------|------|------|-----|------|
| 日本文学文化     | 328  | 205  | 127  | 19  | 679  |
| 英語英米文      | 130  | 631  | 318  | 72  | 1151 |
| 哲          | 174  | 110  | 39   | 16  | 339  |
| 歴史         | 538  | 209  | 107  | 26  | 880  |
| 環境地理       | 142  | 113  | 80   | 10  | 345  |
| 人文・ジャーナリズム | 0    | 0    | 37   | 20  | 57   |
| ジャーナリズム    | 158  | 216  | 0    | 0   | 374  |
| ネットワーク情報   | 13   | 21   | 22   | 9   | 65   |
| 心理         | 173  | 310  | 116  | 23  | 622  |
| 社会         | 398  | 443  | 235  | 32  | 1108 |
| 合計         | 2172 | 2347 | 1130 | 239 | 5890 |

### 3 回答概要 学科学年別傾向と各質問項目への回答状況

学科、学年別の回答状況は上記【表 4】の通りである。文学部と人間科学部以外の学生の回答が少数存在しているのは、全学公開科目などが含まれているからである。4 年生の回答が少なく 2 年生を中心に回答数が多くなっているというのは、どの学科にも共通する特徴である。

各質問項目への回答状況は【図 1】の通りである。回答の内容を数値化して平均値を見たのが【表 5】である。授業の「明晰さ」、「体系性」、「知的魅力」、「有益度」、「教員の熱意」など、授業のアカデミックな質に関しては概して高い評価が得られている。一方で「理解度への配慮」や「自発的学習の促進」など、学生に勉学を促すような仕掛けについてはやや低い評価となっているが、昨年度と比較するとどの項目の軒並みポイントを上げている。唯一ポイントを下げたのは、「教員の熱意」であり、これは授業がオンライン化した影響であると考えられる。

【図 1】 各質問項目への回答 Q1～Q8



1「あてはまらない」、2「どちらかといえばあてはまらない」、3「どちらともいえない」、4「どちらかといえばあてはまる」、5「あてはまる」

【表 5】 各質問項目の回答値の平均値・標準偏差

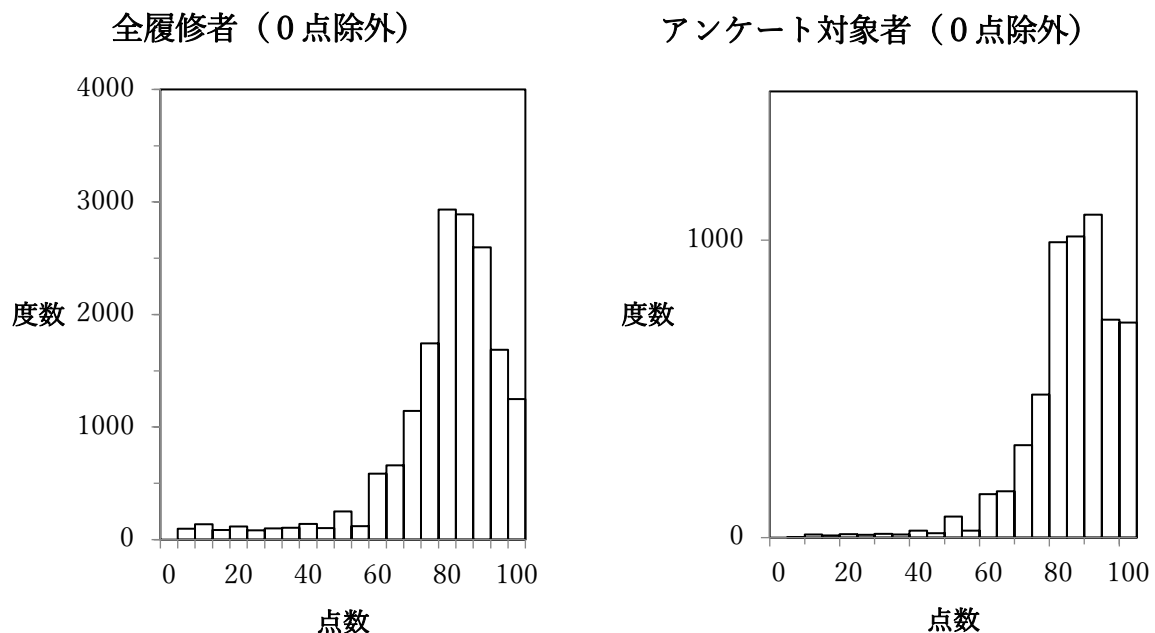
|      | Q1    | Q2    | Q3    | Q4    | Q5    | Q6    | Q7    | Q8    | Q9    |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 平均値  | 4.81  | 4.21  | 4.35  | 4.30  | 4.32  | 4.04  | 3.97  | 4.47  | 2.94  |
| 標準偏差 | 0.49  | 0.97  | 0.87  | 0.93  | 0.87  | 1.06  | 0.99  | 0.79  | 1.08  |
| 回答者数 | 5,890 | 5,890 | 5,890 | 5,890 | 5,890 | 5,890 | 5,890 | 5,890 | 5,890 |

#### 4 学生の勉学状況

##### (1) 成績分布

回答した学生が授業に積極的に関わっている学生であることはありうるとしても、回答した学生群が必ずしも高成績を収める学生に偏しているわけではないことは【図 2】で知ることができる。【図 2】は当該科目の全履修者と回答学生の成績分布を示したものだ。履修者の母集団にはレポート提出そのものをしていない学生や履修を断念した学生が少なからず含まれているため、0 点除外で比較した。全履修者と回答学生の成績分布は類似しているが、回答した学生は成績上位者に多く 50 点以下で少ないという傾向は昨年よりは強まっている。

【図 2】 履修者及びアンケート回答者の成績分布



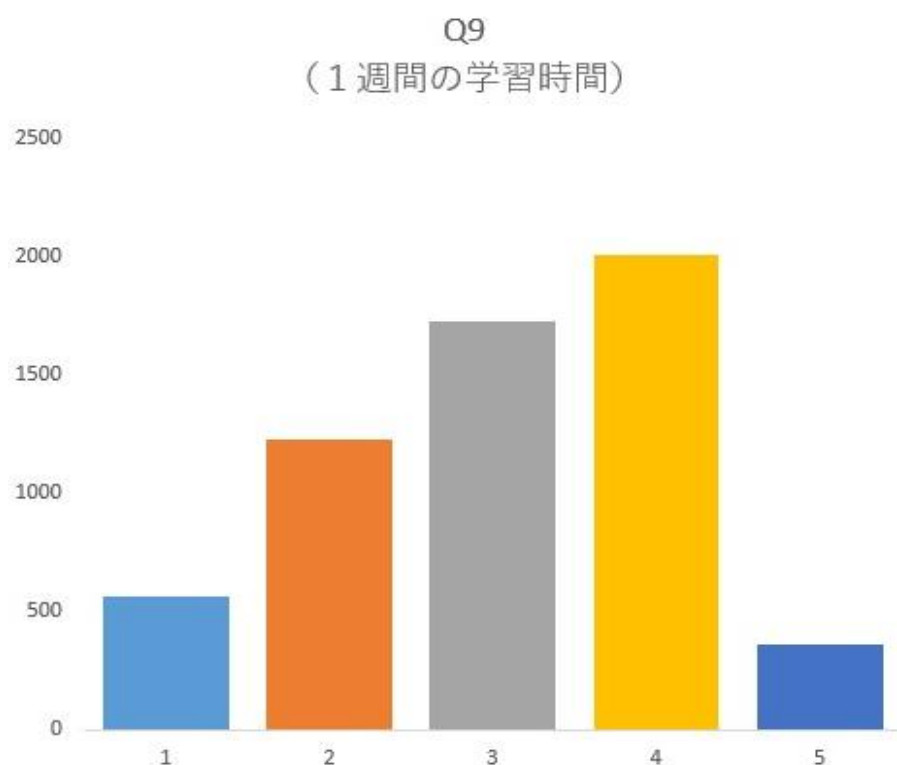
##### (2) 学習時間

授業外学習時間が格段に増加したのが今年度の特徴である。【図 3】は 1 週間

の授業外学習の時間をまとめたものだ。例年は、授業外学習時間を「全くしていない」という学生が3割程度見られたが今年度はそのような学生は1割を切り、人数でも1000人以上減少している。同様に、例年は学習時間が多くなるにつれて人数割合が減少していたが、今年度は逆である。最も人数割合が多いのは「1時間以上4時間未満」(2010人、34%)で、「4時間以上」学習している学生も6パーセント以上みられる。授業の大部分がオンラインとなったことの予期せぬ「効果」であると考えられる。

大学の単位制度は1単位当たり45時間の学習を想定する(大学設置基準第2条)ものであり、したがって1科目につき毎週3時間の授業外学習の確保が想定されている。今年度は現状がそれに近づいてきている。

【図3】 1週間の学習時間



1 = 全くしていない、2 = 30分未満、3 = 30分以上1時間未満、4 = 1時間以上4時間未満、5 = 4時間以上

### (3) 読書習慣: 傾向頻度

授業外学習の実質的な作業の代表は読書である。「アンケート調査」では学生の読書習慣について尋ねている。授業の参考書も含めて最近3ヶ月に読んだものについて複数回答可で尋ねた結果が【表6】である。選択肢は「授業の参考書」、



「マンガ」、「学術書・学術論文」、「文芸作品」、「新聞」、「その他」、「全く読んでいない」の7つである。選択肢中の「授業の参考書」は必ずしも当該授業のものに限定されてはいない。

昨年に比べると「授業の参考書」が約 10%増加している。授業外学習時間の増加の内実の一端であろう。とはいうものの、学習時間が増加しているほどには読書が増えていないのは、授業外学習の作業内容が授業内に提示された教材を使用する類のものが多いいということなのかもしれない。なお、文芸作品は昨年に比べて約 4%減少した。また約 5%の学生は、比較的多くの回答者が手にとっている「マンガ」や「新聞」も含めて全く読書習慣がないとしている。

【表 6】 読書習慣の各選択肢の選択率

| 種類       | 比率    |
|----------|-------|
| 授業の参考書   | 62.4% |
| マンガ      | 52.7% |
| 学術書・学術論文 | 50.1% |
| 文芸作品     | 40.7% |
| 新聞       | 37.5% |
| その他      | 12.0% |
| 全く読んでいない | 5.1%  |

(延べ学生数、N = 5,890)

#### (4) 読書習慣： 学年別学科別傾向

読書習慣の傾向には学年別学科別の特徴が見られる。学年別の傾向をまとめたのが【表 7】である。「新聞」と「学術書・学術論文」は学年が上がるにつれて増加し、逆に「全く読んでいない」学生が減るのは昨年同様である。1年生に最も読まれているのは、昨年度は「マンガ」(52.5%)であったが今年度は「授業の参考書」(66%)に変化した。

学科別傾向をまとめたのが【表 8】である。「新聞」がよく読まれているのが LZ・LM は昨年同様、「学術書・学術論文」が多いのが LR・HP も同様であるが LG も多くなった。文芸作品とマンガが LB で多いのは昨年同様である。「学術書・学術論文」や「文芸作品」が読まれる頻度には学科間に大きな差が見られるが、「マンガ」はどの学科でもコンスタントに読まれているのも昨年同様である。

【表 7】 学年別の読書習慣

| 種類       | 1 年次  | 2 年次  | 3 年次  | 4 年次  | 5 年次以上 |
|----------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 新聞       | 36.9% | 37.0% | 38.8% | 44.7% | 23.1%  |
| 学術書.学術論文 | 48.4% | 48.7% | 53.3% | 67.4% | 46.2%  |
| 授業の参考書   | 66.0% | 60.8% | 61.2% | 52.1% | 50.0%  |
| 文芸作品     | 41.9% | 40.1% | 40.4% | 34.9% | 46.2%  |
| マンガ      | 54.4% | 51.7% | 53.2% | 42.8% | 65.4%  |
| その他      | 13.4% | 10.7% | 11.6% | 14.0% | 7.7%   |
| 全く読んでいない | 4.5%  | 6.0%  | 4.3%  | 5.6%  | 0.0%   |

【表 8 学科別の読書習慣】

| 種類       | LG    | LB    | LA    | LT    | LR    | LK    | LZ    | LM    | HP    | HS    |
|----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 新聞       | 45.0% | 32.8% | 26.1% | 32.7% | 37.8% | 48.4% | 68.4% | 63.4% | 23.6% | 46.6% |
| 学術書.学術論文 | 61.3% | 33.3% | 27.2% | 47.5% | 74.2% | 57.7% | 38.6% | 33.7% | 76.5% | 58.8% |
| 授業の参考書   | 61.3% | 74.7% | 58.4% | 60.2% | 62.2% | 42.0% | 63.2% | 61.8% | 60.0% | 70.5% |
| 文芸作品     | 41.3% | 80.7% | 44.0% | 48.1% | 32.0% | 31.0% | 45.6% | 43.6% | 30.9% | 28.2% |
| マンガ      | 53.8% | 75.1% | 45.1% | 57.5% | 45.7% | 34.5% | 57.9% | 51.1% | 56.6% | 54.9% |
| その他      | 8.8%  | 16.8% | 11.3% | 17.7% | 10.3% | 7.5%  | 19.3% | 13.1% | 8.2%  | 11.4% |
| 全く読んでいない | 6.3%  | 1.3%  | 7.6%  | 6.8%  | 3.8%  | 5.5%  | 0.0%  | 3.5%  | 5.9%  | 4.4%  |
| 回答者数     | 80    | 679   | 1151  | 339   | 880   | 345   | 57    | 374   | 622   | 1108  |

日本語学科 (LG)、日本文学文化学科 (LB)、英語英米文学科 (LA)、哲学科 (LT)、歴史学科 (LR)、環境地理学科 (LK)、人文・ジャーナリズム学科 (LZ)、ジャーナリズム学科 (LM)、心理学科 (HP)、社会学科 (HS)

## 5 オンライン授業に関する自由記述

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、ほとんどの授業をオンラインで実施した。このオンラインという授業形態について、自由記述で 4 項目について回答を求めた。すなわち、Q13、Google Classroom, Google Meet を使用した感想、Q14、オンライン授業でよかった点、Q15、オンライン授業で不

不安を感じる点、Q16、「対面授業」と比較して「オンライン授業」でよかった点（2～4年生対象）である。

Q13（Google Classroom, Google Meet を使用した感想）では、総回答数 764 件で、メリットとしては、資料や質問等を見返せる点から予習・復習が取り組みやすいなど、学習面についての多く指摘されており、問題点としては、画質が粗くなるや音声途切れてしまうなどの通信環境などによる弊害が主に指摘されている。

Q14（オンライン授業でよかった点）では、資料などをいつでも読み返せるなど復習に関する感想が多く記載されていた。授業で使用する資料が一定の時間（或いは常に）アップされていることなどが復習のハードルを下げたのだと考えられる。

Q15（オンライン授業で不安を感じる点）では、Q13 で挙げられた通信環境に関するものが多い。そのほか、課題が提出できているのか不安、あるいは課題が多いといった意見が見受けられた。課題は授業外学習の意でもあり、課題が多いという認識は学習時間が増加したと連動している。

Q16（「対面授業」と比較して「オンライン授業」でよかった点）では、圧倒的に時間の余裕を指摘する意見が多い。通学時間や移動時間が無くなったことで時間の管理がしやすい、時間の有効活用できるなどである。また、授業に能動的に参加できる、気軽に教員に質問ができるといった意見も多く挙げられていた。

## 6 おわりに

現状においては授業そのものに対する学生の満足度は高く、学生の知的関心に応える授業が提供されていると判断してよい。1 週間の学習時間が昨年度に比べて大幅に増加しているなど、オンライン授業の導入が学生の積極的な学習につながっていることが推測できる。学生のこの積極的な勉学姿勢を対面授業に戻った後にも維持させることがむしろ今後の課題だといってよい。オンライン授業には対面授業とは異なる教育効果があることを考えると、対面授業に戻った時にもオンライン授業の活用を考えてよい。